

子供企画型 レポート

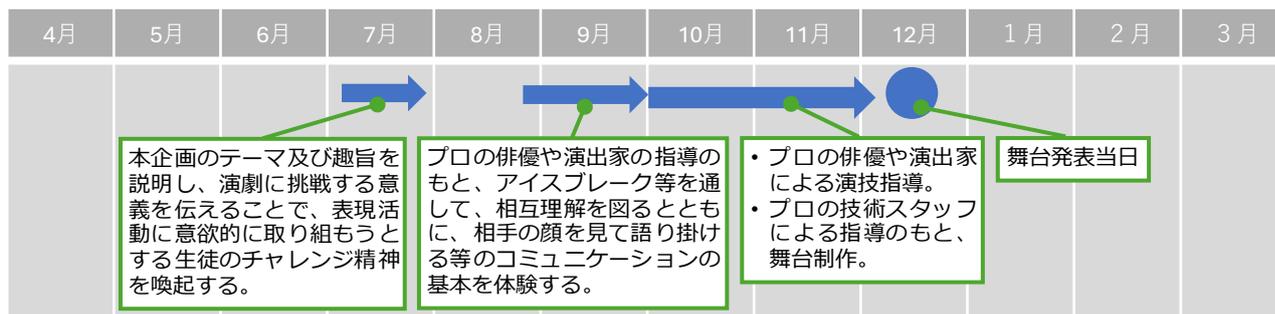
テーマ 舞台の創造と想像の体験

新宿区立四谷中学校

教育計画上の
のねらい

- 1 プロの俳優及び演出家による演技指導を通して、言語、表情、動作など多様な表現方法の奥深さに触れ、生徒が主体的に表現方法を選択・実践することにより表現力の伸長・深化を図る。
- 2 プロの俳優と代表生徒との共演及び稽古を通して、普段見ることのない舞台の裏側に触れ、生徒の視野を広げるとともに、新たなことに挑戦する機会を設定することで自己肯定感を高める。
- 3 演劇の鑑賞を通して、生徒の想像力の伸長を図り、自身の生活に生かす機会とする。

児童・生徒の企画内容
年間スケジュール



児童・生徒の声



企画に関わった
児童・生徒

「実際、なかなか見られない演劇の裏側を見て、いろいろな人の協力によって一つの劇ができるのだなと思いました。」・「私は裏方として参加しました。プロの俳優さんたちとの共同による舞台は本格的な演劇になっていて、本当によかった。」・「今回の経験をこれからの“生き方・考え方”に生かしていきたい。」

参加した
児童・生徒

「演劇を通じて、人前で表現する楽しさや、仲間と協力して一つの作品を仕上げていく大切さを学んだ。」・「自分が作品をどれだけ愛せるかということが大切だと学んだ。」・「何もしないで“できない”と言っていた自分を思い返すと、とてももったいなかった。今後は“できるか、できないか”ではなく、“まずやってみよう”という気持ちになった。」

取組・実践



相互理解のためのアイスブレイク

コミュニケーションの基本は相互理解

今年度の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」のキャストは、すべて希望者によって決定した。「昨年は見る側だったので、今年は見せる側になりたい」など、挑戦しようとする気持ちを奮い立たせて応募してきた生徒が多かった。

俳優、演出家はもとより、学年を越えたメンバー同士がまずは呼び名を決め、声を掛け合い、相手の顔を見て言葉を届ける練習から活動を開始した。

はじめはぎこちない様子も見られたが、次第に相互理解が深まり、コミュニケーション力の向上が見られた。



稽古を通して表現を広げ、相互理解を深めて…

稽古を重ねる中で学んだこと

8月末から本番までの約3か月間にわたり、9回の稽古を通して、演出家、俳優、舞台監督やスタッフ、そして異なる学年の生徒同士が心を通わせながら舞台づくりに取り組んだ。

セリフの修正や立ち位置など、生徒たちの声を聴きながら舞台を作る中で、演出家を含むすべてのスタッフとの信頼感が深まった。

舞台監督を中心に生徒と意見を出し合い、衣装を決定した。全員が協力し、膨大な量の新聞紙を丸めて「海のイメージ」を制作することに苦労したが、それらの取組の中で、表現力を伸長・深化させることができた。



緊張しながらもフォローし合った発表本番

発表本番の中で深まった絆

直前のリハーサルによって、キャスト・スタッフ全員の心が一つになり、互いの信頼感が一気に深まる様子が見られた。

本番中にセリフが出てこない場面でも、互いに合図し合ったり、アドリブでフォローし合ったりすることで、乗り切ることができた。

劇のエンディングでは、キャストを含む全校生徒の合唱で体育館が一体となり、感動のうちに幕を閉じた。鑑賞している生徒、演技している生徒それぞれが、仲間の意外な一面に気づき、互いに認め合うことで、自己肯定感が高まっている様子が見られた。

成果

- キャストとして参加した生徒全員が、大きな達成感、相互理解による信頼感、表現することの大切さや奥深さを感じる事ができた。キャストの生徒の多くが、人前での表現に不安を感じていたが、過去の自分から抜け出し、新たなことに挑戦することの意義を感じている様子が見られた。
- 鑑賞した生徒からは、学校としての一体感を感じたという感想が多く寄せられ、1・2年生の中には、「次年度の活動があればぜひ参加したい」と回答した生徒も多数見られた。